

広報イキシア 63号

理事長 寺田 一郎

『大雲寺から今へ』

四月に、障害者総合支援法が施行されましたが、重なる制度改正の一環であり法改正というほどの中身ではないので、今回は地域ケアの視点で精神障害を考えてみようと思います。

私は、毎年八月に京都の専門学校で通信教育の集中授業をすることが恒例になっています。そのついでに、今年こそ、岩倉大雲寺を訪ねたいと願っています。

わが国の民間療法

京都市左京区にある紫雲山大雲寺は、平安時代から精神障害者の原初的なケアが実践されたところとして知られています。大雲寺は、天台宗の古刹で最盛期には僧兵千人を抱えた大寺院であり、源氏物語「若紫」などの舞台にもなったという。後三条天皇(十一世紀)の第三皇女が精神病になったとき、大雲寺の井戸水を飲んだところその病が治ったという伝承があります。境内の茶屋に宿泊させ、井戸水の飲用や灌水、農作業などをさせたのは江戸時代になってからのようですが、ネットで記事を見つけながら、「伝説の地」を見てみたい気持ちは、ますます膨らんでいます。

我が国精神医学の祖とも言われる東京帝国大学の呉秀三博士は『精神病者私宅監置の実況』で、いわゆる座敷牢に閉じ込められた精神障害者の生活実態を広く伝え「私宅監置」を批判した上で、公立精神病院の設置を訴えました。この報告では、「私宅監置」の状況について「患者を処遇するのにせいぜい人間扱いしている程度であり、(中略)その不良なものに至っては、衣食の提供の希薄さ、看護のおろそかにされている様はむごたらしさを極め、同情の念を到底抑えきれない。」と病院での治療の必要性を訴えています。

博士は、また、民間療法の状況についていくつか報告しています。

高尾山薬王院(真言宗、東京府南多摩郡)、正中山法華経寺(日蓮宗、千葉県)、原木山妙行寺(日蓮宗、千葉県)、定義温泉(宮城県)などで宿泊しながら祈祷、灌漑(滝に打たれる療法)、作業などを行っていたようです。民間療法の社寺・仏閣の周辺の農家でも、次第に精神障害者を宿泊させながら作業なども行わせるようになりました。このような地盤の上に、やがて近代になって精神科病院となったところもあります。

生活臨床

このように、特に精神病治療の起源に思いを馳せていて思い出したのは「生活

臨床」でした。異業種からこの世界に入った私にとって、特に助けになった考え方でした。生活臨床は、患者を入院させ社会から隔離するのではなく、地域生活の中で治療していくこと、受動型か能動型(生活類型)、金に弱いか色に弱いかプライドに弱いか(生活特徴)などの、患者の性格の分類が基本となっています。

毎日のように読んでいた本は『分裂病～引き裂かれた自己の克服』(飯田真・風祭元編有斐閣)でした。今見直してみると、現在の重鎮が執筆者に名を連ねておられます。

そこでは群馬大学の「生活臨床」が紹介されていました。退院した患者さんの日常的な社会生活のかたよりに注目したこの研究は、(今で言えば)分裂病者の地域生活支援の指針という成果を生み出し「生活臨床」と名付けられました。

再発は生活が変化・発展したときに起きる、要点はこれです。病状の悪化とそれに先行する生活の変化に、患者はそれぞれ特有なパターンを持っていて、そこを衝かれるともろくも再発することがわかりました。分類すると、次のようになります。

①「異性」縁談・恋愛・性生活など②「金銭」財産・損得など③「名誉」学歴・資格・地位など④「健康」健康・肉体的欠陥など。「異性」にもろい人は、「金銭」では再発しません。このような生活の変化と再発の組み合わせを「生活特徴」と呼びます。

精神障害者の地域生活支援では、生活のある目標に向かって拡大・変化させることが希望ある生活を作り出しますが、この変化が再発の誘因になる訳で、時に難しい選択に直面します。退院、単身生活の開始、就職など「生活の変化」のとき、当事者は、支援者はどうするのか。「生活特徴」は、今、あらためて示唆しているように思えます。

柏拠点 2013 年8月より新事業スタート

共同生活介護事業 『エクラス』

たんぽぽセンターが開所し七年、わたげワークスの開所、増築工事を経て、柏拠点は、また新たな一歩を踏み出そうとしています。北柏駅近くにルミエール北柏が完成します。フランス語で「光」を意味するルミエール北柏は、ケアホーム、放課後等デイサービス、訪問看護ステーションが入る複合施設となります。



ルミエール北柏二階・三階部分にエクラスは開所します。かつて、東葛工芸センターのみなさんが日中安定して過ごせるようになり、次にご家族から離れて暮らす

目標を持たれ、ホレブ寮設立に至ったように、たんぽぽ・わたげのみなさんもそれぞれにあった働き方や過ごし方を見つけ、自立への希望を強く持つようになりました。エクラスは、定員十名(男性四名、女性六名)で仲間と共に暮らす場所です。六畳程度の居室と十八畳程度のリビングルーム、共同で使う浴室(各階一か所)とトイレ(各階二か所)、ホームエレベーターがあり、一人暮らしよりはちょっと安心できる環境で、ご家族から離れて生活します。



とはいえ、共同生活の中でも問題や悩みは起こるかもしれませんが、それが地域で仲間と暮らすということだと思えます。時にはけんかをして、共に考え、みんなが笑顔で暮らす住まい「エクラス」、地域の笑顔が輝く「エクラス(éclat フランス語できらめき・輝き)」になれることを願っています。

放課等デイサービス 『すくすく』

また、一階部分には放課後等デイサービスすくすくが開所いたします。すくすくは、医療的ケアといって、口からご飯を食べることができないために胃に穴をあけて栄養を注入したり、呼吸を助けるために気管に穴をあける処置をしているお子さん達が、放課後や学校のお休みの日にお友達と過ごす場所です。



たんぽぽセンターでは、月に一回、医療的ケアを必要とするお子さんと親御さんと一緒に医ケアママサロンというお茶会を続けていました。その障害の重さや医療的な配慮の必要さゆえにさまざまなサービスが使えずに、大きな負担を抱えている親御さん達の負担を少しでも軽くできないか…そのような思いから始まったサロンです。そのサロンに参加していたお子さん達と親御さんと一緒に、手探りではじまる事業です。「すくすく」は可動間仕切りのある広々とした指導訓練室と手洗い・トイレ・浴室があり、全面介助が必要な子どもたちが、いずれ子どもたちの入浴支援も放課後等デイサービスの中で行っていきたくて考えています。

法人としては、新しい事業への取り組みとなりますが、どんなに障害が重くても、お子さん達が命を受けたことを喜び、その成長と一緒に楽しみにできるような、そんな暖かい放課後等デイサービスを目指していきます。

訪問看護 『みつばち訪問看護ステーション』

少し遅れて九月には、すすくのお隣に「みつばち」訪問看護ステーションが開所いたします。みつばち訪問看護ステーションは、障害児・者、とくに小児・精神科訪問看護に特化したステーションです。

たんぼぼセンターでは平成二十三年度より、千葉県より委託を受け、地域の精神医療、福祉、行政職員が精神障害者の退院支援について一緒に考え、地域の課題を明確にすることやネットワークを強化することを目的とした精神障害者地域移行支援協議会を運営しています。この事業に取り組む中で、医療と福祉の連携が難しいという課題は各所から出ていた課題でした。例えば、通院ができないときにこそ具合が悪い状況であり、そんな時はご家族や福祉スタッフは必至な思いでご本人を支えています。けれど、通院できていないので、その状況を主治医は見ることができない。あるいは、医療スタッフが地域での生活や就労は無理と判断された患者さんでも、その方にあった環境設定や生活の組み立てを支援することで思わぬ力を発揮する、というようなことが少なくありません。そのような地域の状況を医療者に伝えていくことが今後の課題であると考えています。

医療者が地域に赴き、ほんの少しサポートすることで、ご家族や地域スタッフの力を生かし、地域で実現できる生活の可能性を広げることができる。患者さんを患者さんとしてではなく、ひとりのひととして、その生活の中の病気によって生じる不安の部分をしっかりケアすることが医療者の責任であるということを実践していきたいと思います。

地域で生活する皆さんやご家族の様子をよく知り、制度や社会資源をよく理解した社会福祉法人が医療を提供することで、地域の生活に密着した看護を提供するとともに、医療と地域をつなぐステーションを目指します。

以上、大きく展開する柏拠点ですが、ワーナーホームが大切に歩んできた We Are Not Alone 私達は一人ではない。仲間がいる。利用者さんやご家族にとって、その重荷を背負う第二の家族でありたいという思いで法人の思いは、時代が変わっても、変わらず大切に歩んでいきたいと思っております。(大久保)

Boulangerie café.PAISIBLE

昨年九月、わたげワークス設立より一年がたち、私たちの願いでもあり、地域の大きな要望でもあった、カフェページブルの復活を目指して、昨年九月増築工事が始まりました。限られた予算の中で、太田設計士、立沢建設さんの多大なご理解とご協力、MAU デザイン



オフィス星見さんにご尽力いただき、ブーランジェリーカフェペジューブルを二階にもつ、わたげワークスの増築がかないました。メンバーも一緒に壁を塗らせていただいたりしました。建設工事でも細かなご配慮をたくさんいただき、感謝しています。



増築工事によって、わたげワークスは就労継続B型の定員を十四名から二十四名に増やし、新しくカフェの仕事ができました。カフェのオープンは楽しみでもありますが、不安も大きかったです。ベーカリーオープンの経験を生かし、八月のグランドオープンに向け、六月より短時間営業を始めました。お客さまからのアンケート

は、時に厳しくもありますが、厳しさの中に温かさがあり、地域の中で、ペジューブルだけでなく、たんぽぽ・わたげが根付いていっていることを感じ、嬉しく思っています。

そして八月、いよいよグランドオープンです。プレオープン時よりもメンバーも職員もぐっと笑顔がやわらかくなりました。メニューも、アンケートを参考に試行錯誤を続けてきました。自慢のコーヒーは自家焙煎コーヒー「茶珈香」さんにご提供いただいた、オリジナルブレンドを使用しています。PAISIBLEのパンにあうブレンドの試作を何度も重ねてできたこだわりコーヒーです。



ぜひ、柏近くにお越しの際は、お立ち寄りください。心と体に優しい味と空間でお待ちしております。(大久保)

○開所式の様子

柏拠点の新規事業開所にあたり、ご家族向けセレモニーに引き続き、七月三十日、関係者向けオープニングセレモニーを実施しました。法人関係者含め七十三名の方にご出席いただき、盛大なセレモニーとなりました。

ご出席いただきましたみなさま、日頃よりお世話になり、たんぽぽを支えてくださる方々にご出席いただき、これまでのご支援に改めて感謝の思いでいっぱい



になりました。と、同時にワーナーホームの活動への期待の高さ、周囲の期待も重く感じました。ワーナーホームが積み重ねてきた歴史に恥じぬよう、ひとりひとりとともに歩む活動を行っていきたいと思います。(大久保)

茂原市に来年一月より就労継続支援B型事業スタート

二〇一四年一月に、茂原市に就労継続支援B型事業『ワークショップ茂原(定員二〇名)』を開始いたします。長生圏域に相談系事業所『長生地域生活支援センター』が活動しておりますが、通所系の事業所の利用ニーズが高く、就労・日中活動系の事業所を立ち上げることとなりました。

場所は、茂原駅から睦沢方面に向かう広域農道沿いです。駅から車で一〇分程の場所になります。茂原駅から等、送迎を予定しています。

作業種目は、パンの製造販売です。柏市『わたげワークス』で行っている PAISIBLE (ペジブル)のノウハウを活かし、PAISIBLE 茂原店として、OPENを四月に予定しています。

一月に事業を開始し、職員、利用者さん共に、OPENに向けて、パンをつくる、販売、接客のトレーニング等を行っていきます。パンの製造以外にも、バックヤードの仕事はたくさんあります。みんなで、一から始める新しい事業所として、今から期待が膨らんでいます。

現在、建物の改修や機材等の準備、打ち合わせが始まっています。地域の皆さんが、ご利用くださるようおいしいパンと素敵なお店づくりを目指し、また、通所される方の利用ニーズに応えつつ、働く場を提供していきます。

通所希望の方は、ご相談、お問い合わせください。

※『ワークショップ茂原』

お問い合わせ先

ワークショップしらさと(高木) 電話 0475-77-2549まで(高木)

カトリア会(家族会)

五月十八日(土)、恒例のバーベキュー大会のあと午後一時五十分から午後二時十五分まで、パンプキンハウスホールにて平成二十五年度カトリア会定時総会を開催いたしました。

出席者は会員総数七十五名中五十一名出席(出席十名、委任状四十一名)。会則十六条に定める定足数を満たしていることを確認いたしました。

次いで第一号議案の「経過報告」として、平成二十四年度の活動報告を以下の通

り報告し承認されました。

①広報イキシア会平成二十四年度九月号内でのカトリア会便りの掲載。

②虐待防止委員会(平成二十五年三月十五日)にオブザーバーとしてカトリア会から会長が出席。

第二号議案「平成二十四年度決算について」ワーナーホーム事務局より議案について詳細の説明があり、満場一致をもって可決承認されました。

第三号議案「会計監査報告があり、満場一致をもって可決承認されました。

第四号議案「平成二十五年度予算案について」ワーナーホーム事務局より予算案につて詳細に説明がありました。事業費につきましては、この後の座談会で事業内容を話合っ、支出が必要な場合には予備費から支出するとの補足説明があり、満場一致をもって原案通り可決承認されました。

総会終了後に会員が集まり座談会を行いました。

まず、総会に先立って行われた理事会で話し合われた内容を紹介いたします。絵画の展示会(アートエドゥケーターによる)や講演会(成年後見等の制度について)などを企画してはどうか。

また現状の総会では、会員(家族)同士が集まって話をしようとしても、短時間ではなかなか打ち解けられない。

このような理事会での話を受けて、座談会では活発に意見交換が出来ました。

その結果、参加人数の目途はつかないがまずは会員(家族)だけで、お互いの経験などを語り合う場を設ける。その中で課題やこれからの活動方針も見えてくるのではないかという結論になりました。

この結果をさっそく実行に移したく予定を立てました。詳細は後記ご覧ください。

多くみなさまに参加いただいて、胸のうちを話せる交流の場にしたいと思います。

私たちも地道に力をつけて、利用者のためにカトリア会を支えていきます。(寺田)

カトリア会員の交流会

カトリア会はワーナーホームの家族会です。平成二十五年五月に開催されましたカトリア会定時総会の中で、「ご家族のみなさんは同じような状況に置かれ、同じような悩みを抱えていらっしゃる。自分の胸の内を明かし、本当に理解しあえるのは同じ境遇に置かれた者達だと思います。一人で抱えているのではなく、自分の境遇を話し、聞いてもらえるだけでも気持ちはすごく楽になります。」との意見がありました。そこで、既にカトリア会会員の皆様にはご案内状を送付させていただきましたが、今年度のカトリア会の活動として、会員(家族)同士の交流を目的とした

食事会を開催することとなりました。詳細については左記の通りとなります。

家族が抱えている悩みを共有し、語り合う場・友人づくりの場になればと思っております。また、その中で共通の課題が見えてくれば、今後のカトリア会の活動に反映していきたいと思っております。皆様お忙しいとは存じますが、ご参加いただければ幸いです。

また、カトリア会に対するご意見・ご要望がありましたら担当者(野老・武藤)迄ご連絡ください。カトリア会への入会もお待ちしています。

一.日 時

平成二十五年九月十四日(土)午後一時から三時

二.会 場

築地日本海

千葉市中央区富士見町

電話

〇四三-二二四-七七九九

三.参加費 三,〇〇〇円

(飲み放題付)

(野老)



ワーナーホーム行事報告

バーベキュー大会

五月十八日(土)に二〇一三年度バーベキュー大会を開催しました。天候にも恵まれバーベキュー日和の中、利用者・ご家族・招待者の皆様等総勢一八三名に参加頂き大いに盛り上がりました。

レクリエーションではワーナーホームの年度初めのイベントであることに加え、新年度で初のご家族とお会いする機会でもある為、新人職員の紹介を含めたダンスを披露し、新たな職員の顔を覚えていただけたかと思えます。



バーベキューの醍醐味であります食事の場面では、新たな試みとしまして、サーバーを配置致しました。ホレブ寮入寮者の高齢化が進んでいる状況を考え「ゆっくりと食事を楽しむ」をコンセプトとしていた為考えたサーバー役ですが、実際に「ゆっくりと食事ができた」という声も多く聞かれ工夫が成功したと感じています。

また、今年度は材料にもこだわり、牛カルビを提供するなど「味」も楽しめたと思います。

しかし、反対にホレブデイサービスセンター自立訓練やワークショップしらすなどの若手の利用者にとっては少し、バーベキューらしい雰囲気が物足りなかったのかもしれないとも思っております。

職員や家族と一緒に焼き、自分が焼いたものを食べるというバーベキューらしい楽しさがもっとあってもよかったのではないかという反省点も残りました。来年度以降この「高齢」と「若者」それぞれが、満足できるようなものを企画することが、課題となってくると思います。

来年のバーベキュー大会では、今年度より皆様に満足して頂ける様、計画致します。

来年度もぜひバーベキュー大会へのご参加お待ちしております。(橋本)

納涼祭

八月三日(日)に納涼祭を行いました。今年のテーマは「響け、みんなの笑い声」ということで、納涼祭に参加される方にたくさん笑って楽しんでいただけるよう計画いたしました。

まず、大網白里市誕生一年目の納涼祭として大網白里市のマスコットキャラクター「マリンちゃん」にサプライズゲストとしてお越しいただき、みんなでスイカ割りを行いました。来場者が一丸となって大きなスイカを見事に割ることが出来ました。



次に、恒例の盆踊りと太鼓演奏では今年も浜太鼓さんにご協力いただきました。迫力のある太鼓演奏に合わせて「炭坑節、どんぱん節、大網白里音頭」を輪になって踊りました。練習を重ねた利用者は浴衣に身を包み一生懸命踊っていました。

模擬店では、かき氷、スーパーボールすくい、型抜き等の夏祭りらしい内容がそろいました。今年もチャリティー焼きそばは大好評で模擬店終了前には完売されました。

大盛況の抽選会の後には、納涼祭のしめくくりとしてよさこいに合わせ、花火と太鼓と踊りのコラボレーションが行われました。手持ち花火、地上噴出花火を太鼓のリズムや踊りの掛け声に合わせて見事に演出されていました。みんなの「どっこいしょ、どっこいしょ」という掛け声が響いていました。

納涼祭はたくさんのボランティアの方、出店、貸出しをしてくださった関係機関の方等みなさまの協力を得て行うことができました。本当にありがとうございました。

来年も納涼祭にて夏の楽しい思い出を作っただけのように計画したいと思いません。(武藤)

特集 プチ旅行に行ってきました。

『日帰り旅行』～新ホレブ寮・ケアホーム第一・ケアホーム第二～

七月二日、利用者一九名と職員六名でエプソン品川アクスタジアム内の水族館へ行ってきました。当日は天候に恵まれ、バスの窓から見えるスカイツリーやレインボーブリッジの景色も楽しむことが出来ました。エプソン品川アクスタジアム内の水族館はワナーホームとして初めて行く場所だったため参加した利用者にとって目に入るもの全てが新鮮に感じる事が出来たと思います。迫力のあるイルカやアシカのショーに手を叩き、「すごい！」と夢中になる方ばかりでした。



体調不良者も出ることなく、笑顔での帰寮に一日の充実感を見る事が出来ました。(寺園)

体調不良者も出ることなく、笑顔での帰寮に一日の充実感を見る事が出来ました。(寺園)

『成田夢牧場』～ワークショップしらさと～

七月十五日利用者十四名と職員三名で成田ゆめ牧場に行きました。今回のテーマでもある「動物と遊んでおいしい物を食べよう！」という事で、カレーやソフトクリーム、牛乳を楽しみにしている利用者も多く、到着後すぐみんなと楽しく昼食を食べました。七月から始まる七万五千本のひまわりを使ったイベントがあり見事なひまわり畑をみる事が出来ました。



場内の動物と直接ふれあうことができ、仔牛や馬の頭を撫でたり、ウサギやヤギに餌をあげたりと、「良い気分転換ができた。」と嬉しい声を聞く事が出来ました。(高橋)

『紫陽花鑑賞』～ホレブデイサービスセンター〈自立訓練〉～

自立訓練では七月九日に絵画サークルと合同で市原にある光徳寺というお寺へ利用者八名と紫陽花鑑賞に行きました。日向にいと汗が止まらないほど良い天気でしたが日陰は風が涼しく昼食やスケッチをするには最高でした。お弁当をおい

しくいただいた後、日陰のベンチから見える範囲でのスケッチをはじめました。スケッチ自体が初めての人、顔が真っ赤になるまでスケッチに集中している人、スケッチよりも記念撮影をしている人など、それぞれの楽しみ方で過ごしました。梅雨明け後の紫陽花鑑賞は一味違った楽しさがありました。描いた絵は今仕上げてま〜す。(古市)



『心のふれあいフェスティバル参加』 ～ホレブデイサービスセンター〈生活介護〉～

五月八日、千葉市文化センターで開催された心のふれあいフェスティバルに利用者十五名と参加し、「翼を下さい」と「涙そうそう」を手話コーラスで発表しました。大きな舞台上でスポットライトを浴び、皆とても緊張しましたが、とても堂々と発表することが出来ました。練習を毎日行い、当日はおそろいの黄色いTシャツを着て、皆で力を合わせ、一つの事を成し遂げたことで自信も持てました。また、昼食の後は、隣の中央公園でバザーと屋外ステージの発表を楽しみました。



今後も様々な行事での発表を通して、団結力のある生活介護にしていきます。(濱田)

みんなのまつり『バザー用品募集』

ワーナーホームでは今年も10月20日(日)にみんなのまつりを開催致します。

毎年恒例のバザーを行いますので、ご家庭で眠っている品物がありましたら、ぜひご提供ください。引き取りに際して誠に勝手ではありますが、損傷の激しい品物はお断りさせていただきます。新品及び新品同様のものに限りませので、ご了承ください。

皆様からのご連絡をお待ちしています。(木村)

社会福祉法人の運営に関する情報開示

平成二十四年度の法人の業務及び財務等に関する情報(事業報告書、財産目録、

賃借対照表、収支計算及び監事の意見書)についてワナーホームのホームページにて閲覧できます。

[HPアドレス]

<http://www.wanahome.or.jp>

ワナーホームの主な動き

【五月】

- ・バーベキュー大会
- ・心のふれあいフェスティバル出店～ワークショップしらさと～
- ・交流会～山武ブリオ～
- ・外食イベント「ホテルオークラ タバーン柏」～たんぼぼセンター～
- ・昭和の森へ行こう(昭和の森公園)～長生地域生活支援センター～

【六月】

- ・シナリリーあじさい祭り出店～ワークショップしらさと～
- ・第一回在職者交流会～夷隅ブリオ～
- ・外出「バッチングセンター」～たんぼぼセンター～
- ・茂原公園へ行こう～長生地域生活支援センター～
- ・城西国際大学水田美術館で絵画鑑賞～ホレブデイサービスセンター～
- ・ブーランジェリー・カフェ PAISIBLE プレオープン～わたげワークス～

【七月】

- ・夏レク(成田夢牧場)～ワークショップしらさと～
- ・ホレブ・ノバハイツ合同日帰り旅行(東京、エプソン品川水族館)～新ホレブ寮・シエスタ・ケアホーム第二～
- ・就労者ミーティング(パンプキンハウス)～山武ブリオ～
- ・「かき氷を作って食べよう」(たんぼぼセンターラウンジ)～たんぼぼセンター～
- ・海へ行こう(一松海水浴場)～長生地域生活支援センター～
- ・茂原七夕まつり出店～長生地域生活支援センター～
- ・あじさい鑑賞(市原市光徳寺)～自立訓練～
- ・柏拠点新規事業オープニングセレモニー(ご家族向け/関係機関)～たんぼぼセンター～

【八月】

- ・納涼祭
- ・第二回在職者交流会～夷隅ブリオ～
- ・交流会～山武ブリオ～
- ・手賀沼花火大会飲料販売(たんぼぼセンター駐車場)～たんぼぼセンター～

- ・海遊び(白里海岸)～ホレブデイサービスセンター～
- ・大網高校茶道部との交流会～ホレブデイサービスセンター～
- ・磯遊び～自立訓練～
- ・ブルーランジェリー・カフェ PAISIBLE グランドオープン～わたげワークス～

寄付・会費をくださった方々

平成二十五年四月～平成二十五年七月

《寄付》

富田博子・八巻哲雄・高中一良・久保田文造・陣内操子・平戸晴子・

《イキシア会員》

〈正会員〉

石原正子・鍛冶正信・村上隆三・宮負栄・今井清光・佐久間道夫・杉山優子・林日出夫・八巻哲雄・大久保昭・田中孝放・駒米裕子・寺田美代子・木村勲・源吉之助・武本三枝子・谷次忠・三田久子・久保田文造・田中修一・林サト・寺井紀久子・若菜良子・萩原衛・俵木康巨・石橋豊和・竹内伸夫・中村卓・安蒜公子・国井誠一郎・大屋祥子・大森民人・伊藤勝美・秋庭広和・村山和雄・上村フク・長瀬祥子・工藤秀久・中山光子・茂腹敏明・富澤祀夫・平戸晴子・中川昌美・薮崎歌子・鶴泰 裕・丹澤正直・小幡秀夫・桑折敏樹・林文雄・中村勝蔵・海上寮療養所・佐藤樹脂工業有限会社・社会福祉法人光正会・協栄工業株式会社

〈賛助会員〉

岩井満・稲沢公一・川井由香子・鈴木紀厚・林千聡・穂坂あい子・杉田輝彦・竹村堅次・石井丸子・布施良子・目黒昭雄・長尾佳子・山家広子・小島初恵・木村末治・鈴木とし子・竹内ひさ・金川洋・小嶋哲夫・花嶋禎一・遠藤雅子・成島麻子・浅香計伊子・村井誠・松永宏子・田村勝海・春田秀雄・室谷勉・藤平英樹・高橋彦次郎・金子延代・斉藤勝義・大谷偕子・萩原良子・宇野良子・鶴岡 潤・秋山茂樹・飯田智・大塚ふみ子・西村弘・平戸和紀・丸山多恵子・望月昂・小川伸子・渡辺奈津子・荒木稔久・土屋明美・平林和佳・渡辺啓治・小島光洋・田邊裕和・杉崎孝・飯倉照平・清野恵美子・林重充・久田正次・齋藤佐貴子・湯浅真純・佐藤壹三・西尾正人・住友雄資・内山潤哉・島田栄子・富沢正昭・坂本一郎・田端幸枝・増子恵子・阿部昌子・匿名希望・(株)沖縄流通センター・のぞみ会事務局

(順不同・敬称略)

編集後記

今回のイキシアでは、新事業開始のお知らせや、行事報告など盛りだくさんの内

容となっています。私個人としては、八月に行われた納涼祭で、花火に合わせてソーラン節を披露したことが印象強く残っています。踊り切った達成感と筋肉痛の痛みは、良い思い出となっています。

まだまだ暑い日々が続いていますが、暑さに負けず頑張っていきたいと思います。(1)